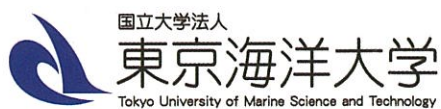


令和4年度 東京海洋大学基金 活動報告



東京海洋大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

東京海洋大学基金

海洋、その先の未来へ
皆様のご寄付が、海洋の未来を拓きます

学長挨拶

皆様には、常日頃より東京海洋大学へのご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が第5類に移行してから、学生たちの顔に明るさが戻り、キャンパス内の雰囲気も明るくなりました。コロナ禍の3年間を振り返れば、大学運営上初めて経験する緊急課題が次々と現れ、その全てに対して総力を挙げて対処して参りました。

修学が困難となった学生に対しては、授業料の免除や徴収猶予等の措置をとると共に、皆様からのご寄附を財源とする給付型奨学金や日本学生支援機構と連携した各種経済的支援を行うことができました。

改めまして、ここから感謝いたします。

一方で、昨年文部科学省が民間企業に委託して行った世論調査（「高等教育の教育費負担等に関する世論調査」）によれば、「大学などの教育費は、家計にとって大きな負担である」と答えた割合が89.5%という非常に高い割合となっています。

原因はコロナ禍だけではなく、国際情勢に端を発するエネルギーや食糧価格の高騰、そして円安が影響しているものと思われま

す。同じく、昨年5月には、内閣総理大臣を議長とする「教育未来創造会議」の第1次提言「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」が公表されました。その基本理念は「日本の社会と個人の未来は教育にある」とされており、今後特に重視する人材育成の視点のひとつとして「高い付加価値を生み出す修士・博士人材の増加」が挙げられており、高等教育機関にはデジタル、人工知能、脱炭素化など、成長分野をけん引する高度専門人材の育成が期待されています。東京海洋大学においても、経済的に困窮する学生だけではなく、博士後期課程まで進学し、未来を支える人材となることを目指す学生達を支援したいと思っています。そのためには、この基金事業を継続・発展させていくことは必要不可欠であると考えております。今後とも皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



国立大学法人東京海洋大学長

井関俊夫

Message



副学長
妻 小波

副学長（産学連携・イノベーション創出担当）からのメッセージ

本学では、経済的理由により修学が困難な学生を支援するため、平成28年11月に「修学支援事業基金」を設置し、これまで多くの皆様方からご支援いただいたご寄附をもとに、学生への経済的支援を実施してまいりました。

令和4年度においては、経済的理由により修学が困難な学生30名に総額300万円の支援を行うとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けた学生167名に「食の支援」として、また不安定な国際情勢に端を発する物価高の影響により経済的に困窮している学生86名に経済的支援として、総額210万円の支援を行うことができました。いただいたご寄附に対して改めて感謝申し上げますとともに、今後も温かいご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

どうもありがとうございました。

事業概要

東京海洋大学基金は、本学における教育研究、国際交流及び社会連携に関する活動等の推進を図るとともに、教育研究環境の整備充実に資することを目的としています。

東京海洋大学基金寄附メニュー



寄附メニュー

A：一般基金

目的指定をせず、大学全体のために活用させていただいています。

B：プロジェクト基金

目的を指定して、各プロジェクト活動の推進のために活用させていただいています。

- ▶ 大学プロジェクト（大学ビッグプロジェクト支援）
- ▶ 修学支援プロジェクト【修学支援事業基金】（税額控除対象）
- ▶ 研究等支援プロジェクト【研究等支援基金】（税額控除対象）
- ▶ グローバル教育支援プロジェクト
- ▶ 学部・研究科等プロジェクト
 - ◇海洋生命科学部◇海洋工学部◇海洋資源環境学部◇海洋科学技術研究科（大学院）
- ▶ 課外活動等プロジェクト
- ▶ その他特定事業プロジェクト
 - ◇明治丸海事ミュージアム事業◇マリンサイエンスミュージアム事業（雲鷹丸修復事業含む）
 - ◇附属図書館整備充実◇海洋生命科学部及び海洋資源環境学部学術研究奨励基金
 - ◇卓越大学院プログラム教育基金◇水圏科学フィールド教育研究センター保全支援基金
 - ◇海洋工学部国際交流基金◇本学練習船による海洋人材育成支援事業基金

収支報告【令和4年度】

受入額

皆様からの温かいご支援により、多額のご寄付をいただきました。
ご支援をいただきました皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

受入件数 241件

受入総額 29,146,633円

寄附者区分	件数	寄附金額（円）
法人	14	14,387,692
個人	227	14,758,941
合計	241	29,146,633

基金支援事業支出報告

皆様方から賜りましたご寄附は、ご寄附の目的に沿って、各支援事業に活用させていただきます。

支出総額 39,250,150円

支援事業	執行額（円）
学生の修学支援	20,090,433
教育研究環境の整備	315,545
学術資料の収集・管理等	17,161,306
その他目的達成に必要な事項	1,682,866
合計	39,250,150

※令和4年度収支差額 10,103,517円については、前年度からの基金繰越金により措置させていただきました。

主な活動報告

学生の修学支援 支援額 20,090,433円

修学支援事業 3,000,000円

修学支援事業とは経済的理由によって授業料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる学生に、授業料相当の学費の一部を支援するための奨学金給付です。

令和4年度は学資支給事業として30名の学生に支援給付することができました。

【支援額】 30名×100,000円

新型コロナウイルス感染症対策助成事業等 2,399,623円

- ◇ 新型コロナウイルス感染症対策助成事業（食に対する支援）
コロナ禍の影響により経済的に困窮し、学業継続に影響を受けている学生167名に大学生協食堂で使用できる電子マネー（学食マネー）を支給しました。

【支援額】 167名×10,000円

- ◇ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策
学生の感染拡大防止策として、越中島キャンパス内に一時待避スペースの確保等に活用させていただきました。

【支援額】 299,623円

- ◇ 国際情勢等による物価高対策支援事業
ウクライナ情勢等の国際情勢に端を発する資源価格上昇に伴う物価高の影響により、経済的に困窮している学生へ、食費や修学に必要な消耗品等の費用を支援するため、大学生協食堂や購買で使用できる電子マネー（生協マネー）を支給しました。

【支援額】 86名×5,000円

学部・研究科等プロジェクト支援事業 14,690,810円

特定の学部等へご支援いただいたプロジェクトにおいても、学部等独自に学生の修学支援事業に活用させていただいております。

【支援額】

海洋生命科学部・海洋資源環境学部	2,058,083円
海洋工学部	2,703,606円
その他（課外活動補助）	29,121円

三輪正人育英会奨学基金（海洋工学部）	9,900,000円
--------------------	------------

- ◇ 令和4年度においても基金により、「大津皓平文庫」の整備充実をすることができました。授業指定図書・シラバス掲載の教科書、教員の選定する専門性の高い資料、洋書など整備するとともに和洋電子書籍の充実を図っています。

<附属図書館越中島分館>

【支援額】 1,289,042円

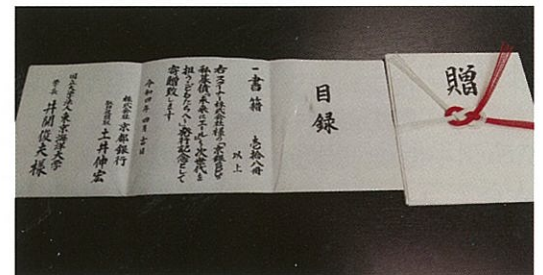


- ◇ 附属図書館の整備充実のために、学生用図書・電子書籍の充実に活用させていただきました。

各教員からの推薦、学生からのリクエスト図書（電子書籍、視聴覚資料を含む）を整備することができました。

【支援額】 484,570円

- ◇ 旧東京水産大学卒業生のスクーター株式会社代表取締役社長樋口信行様から、「京都銀行SDGs私募債『未来エール』～次世代を担うこどもたち～」を通じて、授業の指定テキストや学生からリクエストのあったものを中心に、図書を寄贈いただきました。



- ◇ 重要文化財「明治丸」の修復及び維持管理のために使わせていただきました。

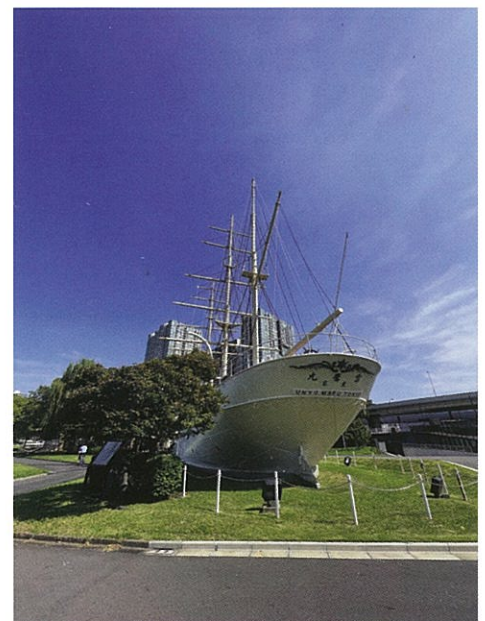
※重要文化財「明治丸」「百周年記念資料館」「明治丸記念館」の観覧については明治丸海事ミュージアムのホームページをご覧ください。

【支援額】 14,381,210円



- ◇ 登録有形文化財「雲鷹丸」の定期保存修復工事に使用させていただきました。

【支援額】 1,006,484円





<修学支援事業>

この度は修学支援事業基金を通して奨学金を賜りましたこと、心から御礼申し上げます。今後の教材購入費用に充て、勉学に精進しようと存じます。2年次となると専門科目が多くなります。私は、教職科目や海技士の科目も学びたいので、より多くの単位を良い成績を残して取得していきたいです。(海洋資源環境学部1年生)

修学支援事業基金奨学金を給付頂きありがとうございます。授業料を支払うために頂いていた、日本学生支援機構の給付型奨学金の支給が止まってしまい、授業料の減額も無くなってしまった中、このような奨学金を頂けることを大変感謝しております、いただいた奨学金は授業料の支払いに使用させていただきます。(海洋生命科学部1年生)

修学支援事業基金の採用を決定して頂きありがとうございます。コロナ禍で父の収入が厳しくなっているので助かります。今後も、より一層勉学に励みたいと思います。支援いただいた奨学金は、学費に充てさせていただきます。(海洋資源環境学部2年生)

昨今新型コロナウイルスの影響や物価高など苦しい状況が続く中、修学支援事業基金にご寄附いただいた方々に感謝いたします。目まぐるしく社会が変化していく中、私が問題なく大学に通えているのも修学支援事業基金奨学金による支援をいただいているおかげであることを現在も強く感じています。ありがとうございます。(海洋工学部2年生)

修学支援事業基金にご協力下さっている皆様に心から感謝申し上げます。この奨学金に本当に助けられております。皆様の温かいお気持ちに支えられて勉学を継続できる幸せを噛みしめ一層励みます。ありがとうございます。将来は研究分野に関連する業務で社会に貢献し、本事業基金を支える皆様のように、私も後輩たちを応援したく思っております。(海洋資源環境学部3年生)

修学支援事業基金のご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。ご支援をいただく前は、アルバイトを行い少しでも、母の経済的負担の軽減を図ろうと考えておりましたが、ご支援を頂いたことにより現在は学業に専念することができております。ご支援を下さったすべての方々に心よりお礼申し上げます。現在は、学業と就職活動を行っており、自分自身と向き合いながら一日一日を实のあるもの出来るよう努力してまいります。学びを大切にすることはもちろん、周囲の友人や先生方との意見交換や交流できる時間を大切に過ごしていく所存です。(海洋工学部3年生)

この度は、修学支援事業基金から奨学金を給付していただき、ありがとうございます。コロナ禍の難しい状況の中でも、学習環境を整え勉学に集中することができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今回いただいた奨学金を活かして、研究活動に向けて更に精進していきたいと思っております。(海洋科学技術研究科博士後期課程)

**支援をいただいた学生たちの声は、この他にも多数届いております。
皆様のご支援のおかげで、多くの学生に手を差しのべることができました。**

寄附者からのメッセージ

皆様からは金銭的なご支援だけではなく直接いただく「お声」が東京海洋大学の活動、学生の励みとなっています。

- ◇微力ですが、コロナ禍でも、全ての学生が学業に専念できるように願います。
- ◇新型コロナウイルスに負けないで実験や実習に頑張ってください。
- ◇厳しい社会で学生も大学も大変と思いますが、よろしく願いいたします。

- ◇在学生の施設充実にご活用ください。
- ◇2000年海王丸で東京→ボストン遠洋航海に行った息子がおかげさまで現在、東京湾水先案内人として活躍しており感謝しております。
- ◇1人でも多くの学びの機会に役立ててください。貴校の学生様を積極的に採用している企業の1つです。ささやかではありますが、お役に立てただけですと幸甚です。
- ◇海洋研究を応援します。
- ◇大学としてもっともっと頑張ってください。
- ◇父の遺産の一部を寄附させていただきました。
引き続き私の収入からも寄附を続けることにします。父は苦学生だったので、ささやかですが同じような状況の学生の助けとなれば幸いです。千里一日五里二十日 目先の事に一喜一憂せずに、理想を掲げて世界に活躍する人になってください。
- ◇商社である私たちの商材は、海を渡らずしてお客様に届けることはできません。創立50周年にあたり、海洋保全や将来の海に関する人材の育成に少しでも寄与できれば幸甚です。社会に貢献できる人材になることを期待します。
- ◇修学支援にご活用頂ければ幸いです。東京商船大学の頃を含め、長年お世話になりましたことに感謝いたしますとともに、東京海洋大学の益々の発展をお祈り申し上げます。
- ◇独創的研究、社会に評価される卒業生の育成をお願いいたします。
- ◇海洋立国である日本の将来を担う人材の育成をお願いします。
- ◇広い視野を持つ人材育成のために使っていただきたいです。

- ◇わずかな金額ですが、お役立ていただければ幸いです。
- ◇海洋立国に資している貴校を応援しています。
- ◇年金生活ですので些少の寄附ですが、有効にご活用いただければと思います。
- ◇明治丸がいつまでも保存・公開できますように！
- ◇東京海洋大学のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。



ご寄附への謝意

寄附者の皆様に深い感謝の意を込めまして、ご希望いただきました方へは、以下のとおり本学から謝意を表します。

▶ 寄附者芳名録

ご芳名を本学ホームページに掲載し、末永く歴史に刻ませていただきます。

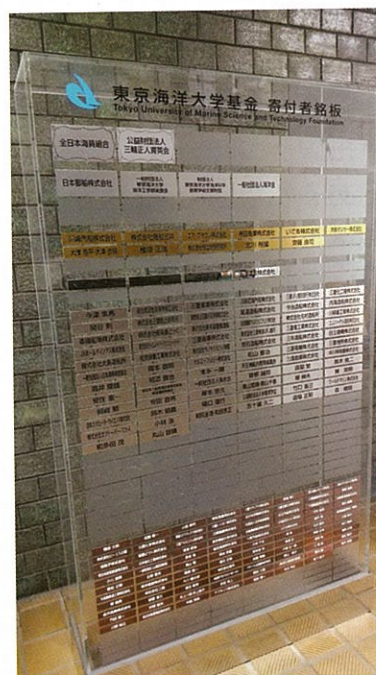
▶ 感謝状贈呈

寄附累計額が10万円以上の皆様に感謝状を贈呈いたします。

▶ 寄附者銘板への掲載

寄附累計額が30万円以上の皆様につきまして、寄附者銘板にご芳名を記し、顕彰させていただきます。

銘板は品川キャンパス(本部管理棟1階玄関ホール)と越中島キャンパス(1号館1階正面玄関ホール)に設置しております。



寄附者銘板 (品川キャンパス R5.8現在)

▶ 「感謝の集い」にご招待

本学が平成23年に「東京海洋大学基金」を設立して以来、一定額(累計30万円)以上の寄附をいただいた方々をお招きして、直接謝意をお伝えする「感謝の集い」にご招待いたします。

※令和4年度におきましては、新型コロナ禍のため実施を見送らせていただきましたが、令和5年度につきましては、4年ぶりに令和5年8月に開催させていただきます。

お問い合わせ先
東京海洋大学基金
基金渉外室

〒108-8477 東京都港区港南4-5-7
TEL 03-5463-4279 FAX:03-5463-0359
E-Mail:ef-kikin@o.kaiyodai.ac.jp
URL:<https://www.kaiyodai.ac.jp/kikin/>



東京海洋大学基金